

“IBD 専門医”に きいてみよう！ 潰瘍性大腸炎の外来診療

潰瘍性大腸炎は、炎症性腸疾患(inflammatory bowel disease:IBD)として難病に位置づけられる一方で、患者数の増加により、実地医家も診療にあたる機会が増えている。これまでは一部の専門知識を有し、診療経験の多い医師が治療を行っていたが、すべてに対応しきれない現状である。また、IBD は小児から若年に発症することが多く、進学、就職、転勤など生活環境が変化するたびに治療を受ける病院も変更する必要がある。しかし、IBD を専門に診療する医師の情報がなく、また、何をもち「専門」とするのかも定まっていないことから、IBD に対する診療実態が不透明であることが問題として提起された。

そこで、日本炎症性腸疾患学会では 2024 年に専門医制度を発足させ、学会が IBD に関する専門知識を有し適切な診療を行う医師に対して IBD 専門医を認定している。同時に、IBD 専門医・指導医が勤務している医療施設も認定・公開しており、IBD 専門医制度を通じて日本全国の IBD 診療実態を明らかとした。将来的には患者がどの病院でもどの医師でも安心して同じ治療を受けられる環境を目指している。

本特集では、IBD 専門医制度について詳細に解説するとともに、学会認定の IBD 専門医に、現在の潰瘍性大腸炎診療について様々な視点・シチュエーションから解説いただいた。昨今では潰瘍性大腸炎診療は入院から外来に移行しており、外来で診療を行う IBD センター、IBD クリニック、診療所など規模の異なる医療機関での診療体制を紹介している。また、IBD ナースの存在や栄養管理などメディカルスタッフの役割も増えており、現状について紹介いただいた。さらに、潰瘍性大腸炎の適応となる治療薬も多くなり、選択肢が増える恩恵を受けているが、治療薬選択に悩む場面も増えていることから、それぞれの場面での治療方法についても解説いただいた。

この 1 冊で若手医師や IBD を専門としない医師にも潰瘍性大腸炎の診療実態を理解していただければ幸いである。

最後に、ご多忙のなか、ご執筆いただいた先生方に感謝申し上げます。

筑波大学医学医療系消化器内科
土屋輝一郎